

## 自立訓練センターからのご案内

### 社会的リハビリテーションを通して、自分らしい豊かな生活を目指そう!

自立訓練センターでは、当施設を利用される方々が自分らしい豊かな生活を営めるよう、個人のニーズや状態に応じた個別支援計画(※)を作成し、必要なサービスを提供しています。



#### 自立訓練 (通所・入所)

- 機能訓練 ～ 身体機能の回復を図ると共に社会の一員として積極的に社会参加を果たせるよう支援します
- 生活訓練 ～ 高次脳機能障害の方が、スムーズに地域生活が営めるよう支援します

【訓練科目】 PT訓練・OT訓練・マット訓練・歩行訓練・家事動作訓練・社会適応訓練  
グループワーク (脳トレ・コミュニケーション・言語訓練・くつろぎ・社会生活力)  
職能訓練 (パソコン・陶芸・絵画・トールペイント・個別プログラム)

#### 入所支援

自立訓練を利用するにあたり、ご自宅からの通所が困難な方に対して生活の場を提供し、必要な支援を行います

#### 短期入所

ご本人や同居の介助者等の都合により一時的に生活の場を確保したい方がご利用いただけます  
また、入所中にはマット訓練・歩行訓練に参加していただくことも可能です

#### 相談支援・家族支援

ご本人・ご家族の不安や疑問に対し、適切な情報提供や助言・指導を行いよりスムーズに地域生活へ移行できるよう支援します

※個別支援計画とは、自立訓練センターを利用される方のニーズを把握(理解)し現在の身体・精神・健康等の状況及び生活環境での問題点を探り、ニーズ達成までの問題解決が計画的に行えるように示したものです

なお、実際に当施設を利用された方の体験記を4ページに紹介しています



《お問い合わせ先》  
自立訓練センター 0744-32-0209  
サービス管理責任者  
機能訓練 河内・島原 生活訓練 松原

# 看護科

病床数100床（一般病棟50床・回復期リハビリテーション病棟50床）・外来9診療科・手術室・中央材料室を担当しています。



研修会風景

## 看護科理念

1. 患者の想いに寄り添い、心のこもった看護を提供します。
2. 患者の人権を尊重し、自己決定、自立への支援を行います。
3. 患者の生活の質の向上を目指した看護サービスを提供します。
4. 看護師としての責務を自覚し、専門職業人として自己研鑽に努めます。

## 教育理念

1. 患者の想いを共有できる豊かな人間性と感性を持った看護師の育成
2. リハビリテーション看護の専門性を追究し、その質向上を図る。

病棟では、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・社会福祉士・介護職員などと共に、患者・家族それぞれの目標に合わせたサポートをチームで取り組んでいます。

## 3階病棟の紹介

整形外科・内科・神経内科の一般病棟です。整形外科は、手術・褥瘡治療、リハビリテーション目的で、また、内科、神経内科では脳血管疾患などの急性期を経て状態が安定した患者さんが、日常生活の自立に向けて入院されています。なお一般の整形外科疾患の診療も行っています。

## 4階病棟の紹介

回復期リハビリテーション病棟は、脳血管疾患・脊髄損傷・大腿骨頸部骨折等の患者さんに対して、ADL能力向上による寝たきり防止と在宅・社会復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に行う病棟です。訓練室だけでなく病棟でも回復に向けたリハビリを行います。



入院カンファレンス

月1回、医師・看護師・リハビリ担当者・MSW合同で、医師の治療方針を中心に患者情報と今後の方向性を共有します。



朝のミーティング

申し送り前に情報収集・タイムテーブルを作成し、チームで業務調整などのミーティングを行います。

看護助手・介護福祉士（総数21人）で、日常ケア・リハビリ送迎などを担当します。1人1人に寄り添ったケアを心がけています。



食事介助



リハビリ出室の説明

## 安全への取り組み

リハビリが進んでくると、活動範囲が広がることに加え、患者自身が1人で出来るのではないかと、確認行動を起こしてしまいます。そんなとき転倒・転落が多くなります。防止するために様々な工夫を凝らしています。

ベッド周囲の整理整頓、患者への声かけ（いつも関心を持つ）、低床ベッドやセンサーマット、赤外線センサーなど患者さんにストレスの少ない物品を用います。



「車椅子介助札」は、介助やケアを行う時統一した対応が出来るように工夫しました。介助内容を記載しています。勿論、患者家族の同意の上です。



ナースコールが目立つようにかわいいクリップを採用

**療養環境を整える** 食堂には季節に応じた飾り付け、廊下の壁等には花・動物・風景の写真を飾り、ベランダでは花壇をつくりました。四季を感じてもらえるように、看護師・看護助手達が世話をしています。長期の入院期間を過ごす患者さんのために、イベント開催も企画しています。



ひまわり飾り



朝顔飾り



ベランダガーデン



イベント

病棟イベント開催 (リハスタッフによるダンス)



病棟リハビリ  
(歩行練習)



食事介助



皮膚・排泄ケア認定看護師

## リハビリ看護のプロとして取り組んでいます

### 皮膚・排泄ケア認定看護師の活動

医師・看護師と協力し、患者さん個々の状態に合わせた褥瘡治療・予防、排泄管理に取り組んでいます。また、退院後、褥瘡発生、尿路感染を予防するための日常生活指導や技術指導・相談に力を注いでいます。

### 糖尿病療養指導士

#### フットケア指導士の活動

入院患者さんの糖尿病教育、足浴をはじめ足の清潔ケア・保湿や爪切り、へんろ胼胝(タコ) 削りなど、専門的知識技術を使ってフットケアを実施しています。

## 連携

## 外来

9診療科あり、一般外来診療を行っています。

特色として、成人は、高次脳機能障害・精神発達障害・麻痺・四肢欠損のある方、小児は、発達障害・視覚・聴覚障害のあるお子様の治療・検査が行えます。安心してスムーズに受診していただけるように心がけています。

外来に来ていただいた患者さんが「ここに来て良かった!」と思える看護を実践しようと頑張っています。

心がけていることを、掲示しています。



糖尿病患者さんのためのフットケア外来(予約制)を行っており、合併症予防に努めています。特定検診も行っています。メタボリックシンドローム予防に向けての指導も行っています。



フットケア外来

### 車椅子体重測定は大切!



## 手術室

当センターでは、整形外科手術を行っています。

人工関節置換術・骨折整復術・関節鏡・脊椎形成術・外反母趾などです。術後は、基本的な動作能力の回復に向けて専門的なリハビリテーションが受けられます。

手術を安心して受けていただくために手術前に訪問し、顔合わせと情報収集、必要に応じて手術室見学・体験などを行っています。

外来と手術室スタッフが同一です。手術に関する疑問や質問など気兼ねなくしていただけます。



手術風景

## 自立訓練センター体験記

### 『自立訓練センターに通って』

自立訓練 ～機能訓練～ 現在通所中

今、生活訓練に通っています。きっかけは12年前の交通事故です。骨折、脳挫傷となり、3日間意識不明の状態が続きました。そして2年前に高次脳機能障害と診断されました。診断されるまで10年かかったのは、当時そんな障害はなく、最近出てきた障害だからです。事故後、特に目立った身体障害も残らず普通に仕事をしていたのですが、会社に行くのが怖くなり、一週間以上仕事に行けなくなり、上司や同僚、家族にも迷惑をかけていました。そんな時、自分は鬱病なのではとも思ったりもして、病院に通うようになったのですが、「鬱ではなさそう」と言われて、特に解決策もないまま仕事を続けていました。その後、退職し再就職したものの、結局、退職しました。母の勧めで別の病院に通う事になったのですが、そこでも同じことを言われました。病院の先生から「事故で頭を打つと、高次脳機能障害が出ることもあるが、それにあたるかも」と言われ、高次脳機能障害支援センターを紹介して頂き、高次脳機能障害と診断され、紆余曲折もあり、自立訓練センターに通うことになりました。こちらでは、様々な訓練があります。脳機能のアップのための脳トレはもちろんのこと、体力の向上のための歩行訓練・マット訓練もあります。また、絵画や陶芸、パソコン等もあり、指先の訓練や社会に出るための初めの一歩的な訓練があります。

通い始めた頃は、馴染めないのではと戸惑っていたのですが、通所されている方々と少しずつ打ち解け、様々な先生方とも楽しく訓練に通わせて頂いています。今では、いろんな方と冗談を交えて、楽しく訓練ができ、自分でも明るくなったと思います。初めの頃は自分からは話さず、話してもぼそぼそと喋っていた(みたいで)ので、支援センターのコーディネーターの方もきっと今の私を見たらびっくりすると思います。

ここで訓練を重ね、1日でも早く社会復帰して、家族や私を心配している方たちを安心させてあげたいです。

### 『入所時体験記』

自立訓練 ～機能訓練～ 現在地域生活中

私以外にも同様と思いますが、病気・事故等により病院に入院して医療治療を受けた後、更にリハビリを受けるが健常者までの回復に至らず後遺症として障害者となり、長期に亘るリハビリ訓練が必要となった場合どここの施設を選定するか?ということになる。

私はその時自立訓練センターの利用を選択しました。そこでの体験を綴りたいと思います。

まず一番大きく感じ得たことは、『自立することが重要』ということです。私が受けたプログラムは、同様に障害を持ち頑張っておられる方と共に訓練するために勇気付けられ参加しやすいグループで行う歩行訓練・マット訓練、新たな経験と脳の活性化に効果があると感じたパソコン・絵画・陶芸等の訓練、リズム感のある毎日で規則正しい生活、福祉パークでの屋外歩行訓練・公共交通機関を利用するの社会適応訓練・運転免許更新とより実践的なリハビリ訓練でした。これらの訓練を通じて思ったのは、リハビリとは体の機能訓練だけでなく、心のケア・社会参加等をリハビリすることにより自立した生活を獲得して行くものと感じ、現在の最上とは言えないまでも安心を感じながらの生活を営むことが出来るようになったということです。

自分で活路を探し、自主性を持ってリハビリをやりたい願望を持っている障害者にとっては、自立訓練センターは良い環境に恵まれた施設であると思います。



## リハビリテーションとは

神経内科 森下直樹

よくご存じの方には復習です。

一般的にリハビリと言えば、杖やその他の器具を使って、歯を食いしばって汗水を垂らしながら訓練するイメージがあります。

しかし、WHOの「リハビリテーションの定義」の一部に、「リハビリは障害者の社会統合を実現することを目指すあらゆる措置を含む」とあるように、機能訓練だけがリハビリではありません。

病気や怪我の症状の回復程度は、障害部位・原因によってまちまちです。特に神経系の障害の場合、後遺症は必発と言えます。最近、再生医療や医用工学の発展、新しい治療技術の開発が、明るいニュースとしてマスコミで報じられることが多いですが、全ての患者さんがほとんど元の体に回復できるようになるのは、残念ながらまだまだ先のように

です。

「リハビリテーション」とは、「障害が無くなれば言うことはないけれど、それができないときは、残された機能を強化して失った機能の代償を行いましょ。それでも不十分なら装具や自助具などで補っていきましょう。それでも足りないければ生活環境や社会環境を整備し直しましょ。そして心身ともに自立し家庭や社会に帰りましょ。」ということ全体を指します。「日常生活の再構築」や「人生の再出発」とも言えます。

それを実現するために、リハビリ医学では、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、MSW、義肢装具士、臨床心理士などがチームを作り、ご家族のご協力も得て、治療・対策を進めていきます。